

市民に紹介したい！ 研究発表会講演論文の紹介

<A4-8 講演論文集>

鉄道駅のごみ箱デザインによる分別促進に関する社会実験

大阪大学大学院工学研究科（現 名古屋産業大学） 加藤 悟 武庫川女子大学 松村憲一

紹介者：環境カウンセラー ^{いわし} ^{かよ} 岩地 加世

家庭内ではごみの分別が常識となった今日でも、一步外に出ると意外に分別を守っていない。コンビニエンスストア、映画館、駅などにはごみ箱が置いてあるが、我が家のごみ箱と同じ想いで接することができる人は多くないのではないかと。なぜか？ 公衆マナーという問題もあると思われるが、分別表示のわかりにくさに加え、ごみ箱が分別をしてほしいような顔をしていないからではないだろうか。

要らない物を捨てるのがごみ箱だから、ごみ箱からのメッセージ性が弱いとこうなる。

ごみ箱：「……」（無言）

ごみ捨人：「ごみ箱か……」

ごみ箱にメッセージがこもっているとこうなる。

ごみ箱：「分別して入れてネ。わかりやすいでしょ。」

ごみ捨人：「はい。ちゃんと分けて入れるからネ。」

ここで紹介する論文は、鉄道駅に置かれたごみ箱が分別したい気持ちを引き起こすものであればもっと分別が進むかもしれない、という仮定から、実際の鉄道駅にひと工夫したごみ箱を置いて利用者の分別協力度を調べるといっても興味深い実験の報告である。

ごみ箱にメッセージをこめるために、筆者らはごみ箱のデザインに注目した。ごみ箱の顔が物いえば、分別は守られるに違いないと。そこで学識者3名に、分別する気持ちを高めるためのごみ箱のデザインとは？ というヒアリングを行っている。その結果、利用者が分別行動を引き起こすためのごみ箱のデザインとはつぎのようなものであると考えた。



図1 本実験に用いたごみ箱（左から従来型、本実験で作成したもの、入れ替えが進んでいる透明型。分別種類は「一般ごみ」、「びん・かん・ペットボトル」および「新聞・雑誌」の3種類）

- びん・かん・ペットの絵表示をする
- 資源として分別すべきものの方に、まずは目が留まる色デザインとする
- 色と文字が引き立つ黒のバックグラウンドとする
- 本体と投入口を同色で色分けをして利用者が明確に分かるようなデザインとする
- ごみ箱でなくリサイクルすることを示すため「リサイクルボックス」というロゴを入れる

なお、鉄道駅では安全確保のための制約があり、形を変えることはできない、動くごみ箱はだめ、赤色など信号色類似色は使えないということであった。

図1には、左から従来型のごみ箱（「従来ごみ箱」という）、本実験で作成したごみ箱（「ラッピングごみ箱」という）そしてJR西日本で入れ替えを進めている透明型ごみ箱（「透明ごみ箱」という）を示す。ごみの分別は「一般ごみ」、「びん・かん・ペットボトル」および「新聞・雑誌」の3種類である。

実験は、JR高槻駅ホーム2ヶ所において、3タイプのごみ箱による調査をいずれも2日間行った。

実験の結果の一部を図2に示す。資源物である新聞・雑誌やびん・かん・ペッ

トに混入した異物の割合は、従来ごみ箱に比べ、ラッピングごみ箱、透明ごみ箱では少なくなった。図には示していないが一般ごみに混入する資源物の割合はごみ箱の種類による差は見られず30%程度であった。

以上から、デザインに工夫をしたごみ箱の場合、資源物投入口に異物を投げ込む人は少なくなったといえよう。しかし、一般ごみに資源物を混ぜることを防止することは、本実験で用いたごみ箱では困難であったと考えられた。

人は、笑顔の人には笑顔で応えるが、無表情の人に対しては無表情になるのではないだろうか。たかがごみ箱であるが、されどごみ箱である。ごみ箱のデザインによって、気持ちよく分別が進むのであれば、こうした研究をさらに進めてもらいたい。

ついでだが、海外青年協力隊として、コスタリカに派遣された友人が、子供たちにごみの分別を教えるため、一番苦労したのはごみ箱選びだったと言っていた。少し高価だったが、ステキなデザインの（絵のついた）ごみ箱だと、子供たちが興味を持ち、大切に扱い、その結果、分別がはかどったそうだ。

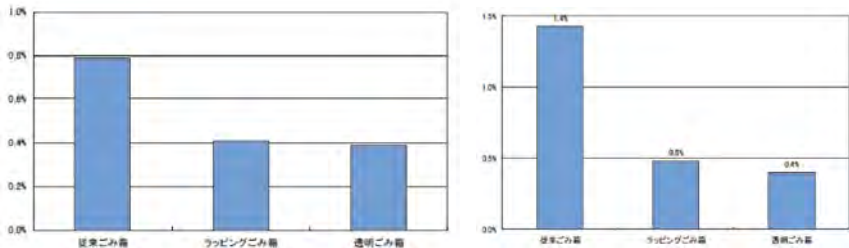


図2 実験結果 (左は「新聞・雑誌」に含まれる異物の割合、右は「びん・かん・ペットボトル」に含まれる異物の割合)